

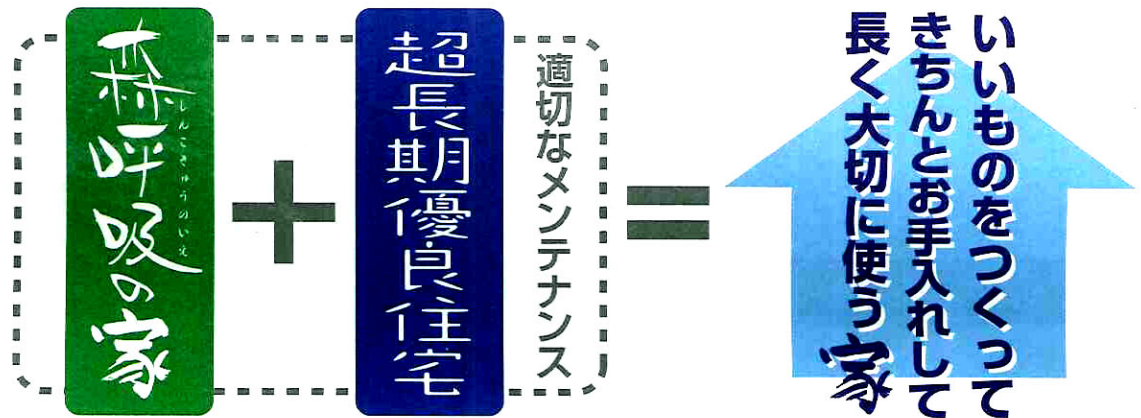
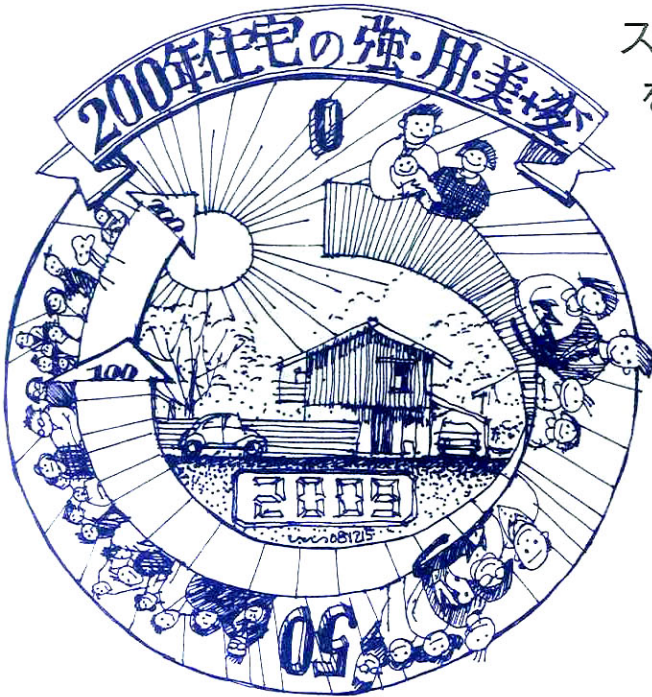
**200年
住宅
を建てよう。**

いいものをつくってきちんと お手入れして長く大切に使う家



200年住宅といわれても、正直、ピンとくる人は少ないでしょう。200年前のことは歴史でしかないし、200年後は、未来学の世界

でしかありません。けれども、今を大事に生きようとするなら、建てては壊す、スクラップ・アンド・ビルドは、もう改めなければなりませんし、顔を見ることはないだろう未来世代に継ぎたい、と思える家を残したいと思います。ものを愛で、ものを慈しみ、ものを大切にする、そんな心尽くしを、未来世代に託しましょう。



国土交通省が推進する、超長期住宅先導的モデル事業に、採択されました。

モデルになる家を募集します

超長期住宅先導的モデルは、別名、200年住宅といわれます。しかし、鉄筋コンクリートが生まれて140年しか経っていないし、ほんとうに200年住宅って可能なの、と言われます。でも、造っては壊すスクラップ・アンド・ビルドは、地球資源を考えると、もう続けられません。200年住宅は、まだスローガンのようなもので、まだ実体はありませんが、長い寿命と、長い必要と、長い好みに応えられる家をつくりたいと思います。ストックになる住宅重視、ということで、国交省

が募集したモデル事業に町の工務店ネットと江田建設が共同開発した4件（新築部門の申請3/既存住宅の改修部門1）すべてが採択されました。応募総数は325件、新築採択件数は29件なので、快挙といわれています。このモデル事業で建てると、補助金200万円（最大幅）が出ます。また、住宅減税についても最優遇（最大幅年間60万円×10年）されます。この制度を利用して〈いいものをつくってきちんとお手入れして長く大切に使う家〉をつくりましょう。

耐震性や、耐久性や、省エネ性能に 高い性能基準を持つ住宅

超長期住宅先導的モデルに採択されるには、高い性能基準をクリアしなければなりません。国が定める建築基準法は、建築するにあたって最低限守らなければならない基準です。それに対して先導的モデルは、これらの住宅に望まれる基準を、申請者が自ら掲げ、それを国が先導的なモデルとして認めた住宅をいいます。

住まいは、耐用性も問題！

《住まいは生活の容器》といわれます。いくら頑丈な家でも、暮らしの用に応えられなくなったら住まいは朽ちます。家族は、構成も生活の様態も、歳月を重ねると変化します。プラン時にその変化に対応できる家造りでなければなりません。建物をスケルトン（躯体）とインフィル（内装）に分け、さらに外装やマシン（設備）などの改修・取替えなども容易に行えなければなりません。